

1月11日(月)

2016年(平成28年)
毎月1日、11日、21日発行
昭和54年4月19日
第3種郵便物認可
購読料 年間16,970円
郵券00190-4-38126

発行所 社 旅行新聞新社

本社 〒101-0021 東京都千代田区外神田6-5-11MOビル604号
電話03(3834)2718(代表) FAX03(3834)3748
関西支社 〒595-0011 大阪市東淀川区東中津3-5-12新築東淀ビル303号
電話06(6647)5489 FAX06(6647)7626
日本専門新聞協会加盟
国土交通省交通運輸記者会加盟
提携誌 韓国旅行新聞、台湾「旅訊」

温泉地の人材育成を

東京で温泉観光実践士講座

温泉を正しく理解し、業の従事者、観光業界へ、温泉観光地の活性化寄与の就職を目指す学生など、89人が受講し、2日わたった実践科目を学ぶ「温泉観光実践士養成講座」が昨年12月5、6日、東京都大田区蒲田の大田区産業プラザP10で開催された。全国の旅館や旅行



浦津雄会長

業の従事者、観光業界へ、温泉観光地の活性化寄与の就職を目指す学生など、89人が受講し、2日わたった実践科目を学ぶ「温泉観光実践士養成講座」が昨年12月5、6日、東京都大田区蒲田の大田区産業プラザP10で開催された。全国の旅館や旅行



温泉地に関する講義が行われた

は、同区が外国人向けに作成した「銭湯の入り方」の動画紹介を受けた。温泉地における3つの「ドゥーリスム」に関する講義が行われた。

講師を担当したのは、代表は「温泉は仕事や買入物と並び、外国人観光客が訪問に期待する」との立場に立ち、とする。一方、「温泉旅館などへの宿泊はまだまだ少数」と言及、理由として「外国人が温泉に行く」理に抵抗がある」との不安要素を上げ、解決策の一つとして、着用して入浴できる「湯あび着」の導入事例を紹介した。湯あび着は、孔が少なすぎれば着を方、1着の役割も担うところから一方で、1着が高まっております。「自然の恵みである温泉」を、あらゆる方が不自由なく楽しめるきっかけになればと呼び掛けた。講座を主催する温泉観光士協会長の浦津雄(大田区観光大使)は、「本講座を通じて、温泉観光事業先にも進めるべき視点を醸成する『温泉POP(Tourism Organizer Point)』の育成を努めたい」と、具体的には「日本を代表する観光資源である温泉への理解を深めてほしい、マスメディアや、幅広い情報発信ができる者を育てたい」と発表を語った。次回の講座は3月27日に大田区蒲田で行われ、6月25、26日に大田区産業プラザP10で開催する。問い合わせは「温泉プラザ」(03)5033-5555。